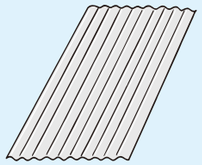
▶取付手順

●用意するもの



波板(品種に注意)

波板鋏

ハンドドリル

傘クギ、フックボルト
などのとめ具

メジャー

軍手

脚立

⚠ 脚立にのるときは、足場が安定している事を確かめ、他の人に支えてもらうなど安全には十分気をつけましょう。

Shin-Etsu 信越ポリマー株式会社

営業本部 営業第四部 第二グループ
〒100-0004 東京都千代田区大手町1-1-3大手センタービル TEL:03-5288-8417

大阪支店: 〒532-0004 大阪市淀川区西宮原1-8-29テラサキ第2ビル TEL:06-6350-1121
名古屋支店: 〒450-0002 名古屋市中村区名駅4-26-13ちとせビル TEL:052-581-4231
福岡支店: 〒812-0026 福岡市博多区上川端町12-20ふくぎん博多ビル TEL:092-281-4666
仙台営業所: 〒980-0021 仙台市青葉区中央2-10-12仙台マルセンビル TEL:022-264-1366
札幌営業所: 〒060-0004 札幌市中央区北四条西12-1-28北4条ビル6F TEL:011-210-8250

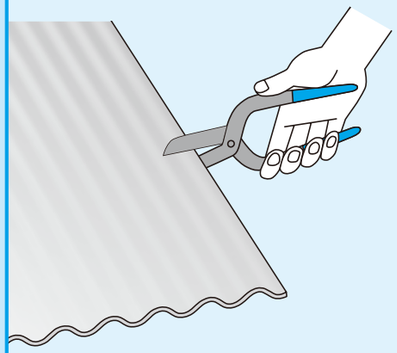
□ホームページ https://www.shinpoly.co.jp/

2025.01改訂7版 5000FA

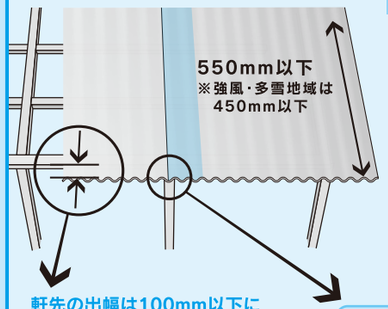
1 »波板の切断

切断は鉄ノコギリ、波板鋏、などで行います。曲線状に切る時は糸ノコギリなどを使用します。

(注)寒冷時の穴あけや切断は特にていねいに行って下さい。



2 »位置ぎめ



軒先の出幅は100mm以下に
(風圧・雪害を防止する為)

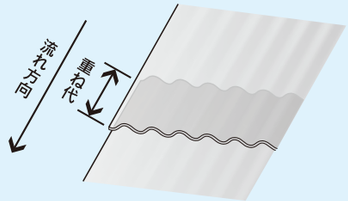
幅方向の重ね

波形	32波(鉄板小波)
重ね代(山)	2.5山以上
有効幅	約575mm

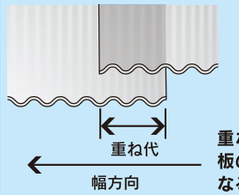
● **重ね代は必ず固定して下さい。**

流れ方向の重ね

勾配	2/10	2.5/10	3/10	4/10	5/10
重ね代(mm)	200	180	150	120	100

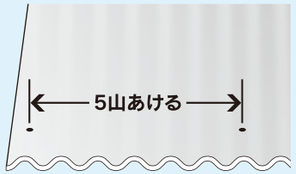


水下側から葺きます。
反対にすると雨漏りします。



重なりの下側になる波板の端は山が上向きになるのが原則。

3 »穴あけ

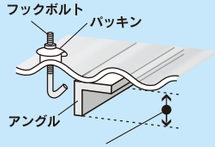


穴あけはハンドドリル等を用い、とめ具より
2~3mm程度大きめにあける。

(注)**穴は、かならず山にあける。**

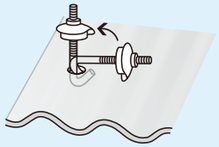
施工前に穴あけ位置に目印をつけ、波板を裏返して、谷に穴をあけると滑りにくく、安全です。

4 »固定のしかた(フックボルト使用の場合)

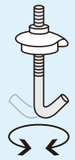


母屋に対するフックの必要寸法

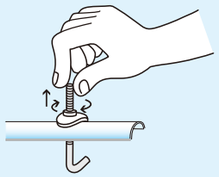
1 ナットをゆるめて、引っかけ部分先端を穴に挿入する。



2 引っかけた状態でフックボルトをおこす。



3 フックボルトを回転させてアングルを引っかける。



4 フックボルトを上に引っぱりながらネジ部のナットを締める。

⚠ 注意

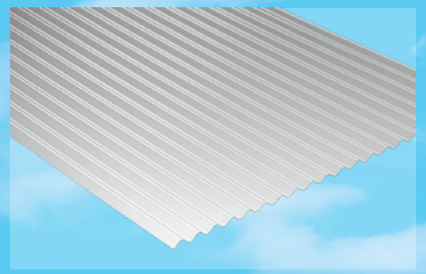
- フックボルトの締付はパッキンが少し押しつぶされるくらいが良く、完全につぶれる程締めすぎないようにして下さい。
- 重ね代には必ずとめ具でとめて下さい。

シンエツナミイタ

Handling guide book

取扱いのしおり

JIS(日本産業規格)認証
JIS K 6735(ポリカタフ)/JIS A 5702(塩ビナミイタ)



Shin-Etsu
信越ポリマー株式会社

用途で選べる多彩な品種と、スペースに合わせた豊富なサイズバリエーション

気持ちよく晴れた日には、
光をいっぱい浴びたテラスでお茶を飲みたい。
カーポートも一つの空間として見直したい･･･。
暮らしに、産業に、シンエツナミイタは、
新しいエクステリア空間を提案します。

波板の選び方

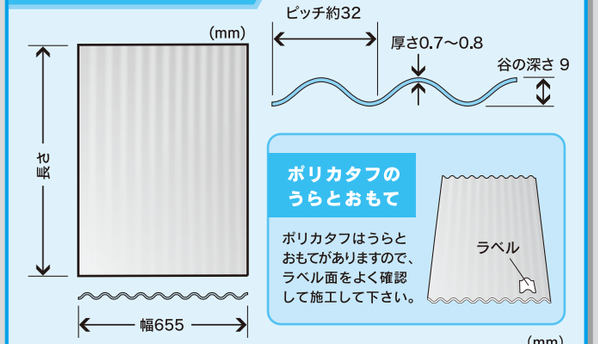
▶適材適所でお選びください。

■ポリカタフ［耐候性、耐衝撃性、採光性］――耐候性、耐衝撃性に優れた波板。

■塩ビナミイタ［スタンダード］――最も一般的な、汎用タイプの波板。

品種	樹脂	採光用				仮設・簡易建築物					目隠し	耐衝撃強度（当社比）
		一般住宅の明り採り	テラス	サンルーム	積雪地のい雪囲い	カーポート 開放型	カーポート 密閉型	物置（開放型）	バス停	バッティングセンター ゴルフ練習場		
ポリカタフ	ポリカーボネート	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	◎
塩ビナミイタ	ポリ塩化ビニル	○	○			○		○	○		○	○

波板の規格



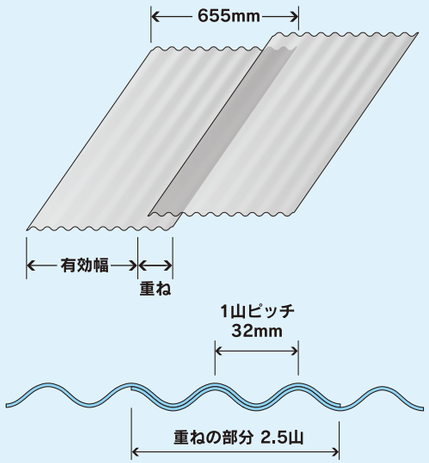
ポリカタフのうらとおもて

ポリカタフはうらとおもてがありますので、ラベル面をよく確認して施工して下さい。

(mm)

品種	厚さ	谷深さ	幅	ピッチ	長さ(尺/mm)
ポリカタフ	0.7	9	655	約32	3/910 4/1220 5/1520 6/1820 7/2120 8/2420 9/2730 10/3030
塩ビナミイタ	0.8				

必要枚数の計算方法



（例）

1間（1800mm）の場合に必要な枚数は、

波板の重ねの部分は
2.5山以上ですので、

655（幅）―約80（2.5山分）
=575（有効幅）mm

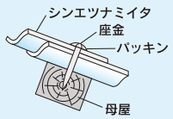
端の1枚を除いて
有効幅から計算してください。

1800 - 655 = 1145mm
1145 ÷ 575 = 1.99枚で

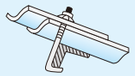
端の1枚、2（1.99）枚と合わせて計3枚必要です。

とめ具の種類

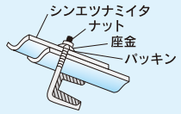
①木母屋打込釘使用



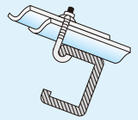
②鉄骨フックボルト使用



③鉄骨チャンネルボルト使用



④フックボルトおよび座金使用



とめ具の必要本数

一般的に、とめ具は鉄板小波1枚（655mm幅/20.5山）で幅方向に対し4カ所とめます。
（とめ具の間は5山あける。）

波板を複数枚使用する場合は、重ね部を考慮します。

幅方向本数=波板必要枚数×3+1
全体本数=幅方向本数×母屋数

［強風地域において］
軒先の出幅を抑え、樋側だけを4山あけて施工すれば、風によるばたつきをある程度防げます。

⚠ 施工時における注意事項

●施工時の際、波板に乗る場合は破損転落に十分注意下さい。●直射日光下で重ねたままの在庫、仮置きなどは変形の原因になりますので避けて下さい。特に夜露、雨水が波板の間に入った場合には、変形・変色が起こりやすくなります。●寒冷時の穴あけや切断はカケ・ワレを生じることがありますので特にていねいに行って下さい。また釘打施工はカケ、ワレが発生することもあり、特に寒冷時には避けてください。●多雪地域では、母屋間隔は小さくとって下さい。特に風の強いところでは、先端部を下から押え縁で押えて下さい。●波板は、温度変化により伸縮しますので、波板の端部に伸びを妨げるような施工は避けて下さい。

⚠ 注意事項

●雪おろし等で波板の上に乗る際は、ふみ板等を用いて十分安全を確保して下さい。●密閉状態の場所では、内部温度の上昇をさけるため、通気口などを設けて下さい。高温や高温多湿下では、波崩れや劣化が促進されることがあります。●シンナーなどの有機溶媒やカセイソーダなどのアルカリ性薬品、また、強い酸性薬品は透明感を失わせたりヒビの入る原因となりますので避けて下さい。●できる限りシーリング材の使用は避けて下さい。伸縮の妨げとなります。

母屋（木材、鉄骨チャンネル、パイプ等）には直射日光による蓄熱を避けるため
できる限り白系統の色で塗装して下さい。

［母屋間隔］

母屋間隔は550mm以下で施工して下さい。

地域	受材間隔
一般地域	550mm以下
強風多雪地域	450mm以下